

報告事項セ

平成25年度民俗芸能フォーラムの開催結果について

平成25年度民俗芸能フォーラムの開催結果について、別紙のとおり報告します。

平成26年4月15日

鳥取県教育委員会教育長 山本仁志

平成25年度民俗芸能フォーラムの開催結果について

平成26年4月15日
文 化 財 課

無形民俗文化財は、地域の文化や歴史を生き生きと語ってくれるものとして、文化財としてのみならず、地域振興・観光の核としても注目されています。

しかし、過疎化・少子高齢化による担い手不足、用具等の老朽化、社会通念の変化の影響による伝承意欲の低下など、その保存伝承にあたっては課題も多く見受けられます。

こうした状況の中、民俗芸能等の保存伝承の問題に関して、平成21年度から4回のフォーラムを開催してきました。今回は担い手の確保をテーマに取り上げ、伝承のための工夫として、民俗芸能を行う地域を超えて担い手を確保している事例を紹介するとともに、今後の保存伝承のあり方について討議しました。

1 日 時 平成26年3月16日（日）午後1時30分～3時50分

2 場 所 鳥取県立生涯学習センター県民ふれあい会館 講義室

3 参加者 24人

4 主 催 鳥取県教育委員会

5 内 容

テ ー マ 「民俗芸能等の保存伝承の問題～担い手の確保～」

事例報告1 江波の三番叟（鳥取市用瀬町江波）

事例報告2 倭文神社大名行列（倉吉市志津）

事例報告3 渡上地区子どもとんど囃子（境港市渡町）

パネルディスカッション「民俗芸能等の保存伝承の問題～担い手の確保～」



ディスカッション風景



会場風景

参 考

平成21年度 民俗芸能を保存伝承していくために ～助成制度の活用と効果～

平成22年度 民俗芸能の後継者育成について ～学校・公民館との連携の可能性～

平成23年度 民俗芸能の披露と保存伝承

平成24年度 民俗芸能等の復興と地域活性化

○来場者の感想（アンケート結果より）

<フォーラムの感想>

- ・ 学校との連携など、具体的なお話を聞き、大変参考になった。
- ・ 写真が大変良い。地図がわかりやすくて良かった。
- ・ いろいろなお話が聞けて、今後の課題が見えてきた。毎年、この会に出て、勉強していかなければいけないと思った。
- ・ 事例報告は大変参考になるので、できるだけ多くの団体にして頂けたらと思う。
- ・ とてもよい会ですが、参加人数が少ないのが残念。もっともっと情報発信し、多くの人に聞いてもらうことも必要。
- ・ 保存、伝承への取り組みの仕方。時間的にも問題なし。時期的にはもう少し早い方がよい。

<今後の保存伝承に向けて>

- ・ 実際に参加、鑑賞をしてみれば良さが分かる。一般の方にもっと参加の機会を持って欲しい。
- ・ 地域一帯となって保存、伝承するべきことなど、地域連携が最重要と思う。広く広報することが必要。
- ・ 後継者育成と承継についてが一番課題。
- ・ ①少子化だけが問題か？（大きな問題ではある）、②その他のクリアーする問題があるのではないか、③②を解決する方向、方向性を認識する必要があるのではないか。
- ・ 芸能交流発表母体への支援・連携・PR・交流活動の促進。安蔵の森「手踊りの集い」など既存活動の活用。
- ・ 伝承地域が抱えている課題の把握。適正な支援、中央助成の獲得の努力。
- ・ 助成率が100%にならないか。（古くなった道具、衣装の新調など）
- ・ その他、市町村担当者のスキルアップも必要だと感じた。